

植物
防疫
講座

病害編-23

トマト葉かび病の発生生態と防除

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
野菜花き研究部門

い だ ゆういちろう す し だ ひろとし
飯 田 祐 一 郎 ・ 須 志 田 浩 稔

はじめに

トマト葉かび病は世界的に重要な病害であり、特に国内では抵抗性品種の打破やレースの多様化等、他国にない問題が顕在化している。本病に関する全国調査によると、過去3年間で北海道と沖縄県を除くすべての地域において被害が確認されている（表-1）。特に関東・東山および東海地域で発生率が高い傾向を示し、それに伴い防除面積も広がっている。また東北地方の夏秋栽培で

も全国平均を上回る発生が認められる。

葉かび病菌の学名はこれまで多くの変遷をたどってきた。トマトの葉上から分離された本菌には初めに *Cladosporium fulvum* Cooke という名が与えられたが、形態的特徴の違いなどから *Cladosporium* 属から独立させ、新設した *Fulvia* 属において *Fulvia fulva* (Cooke) Ciferri とすることが提唱された (CIFERRI, 1954)。その後、分子系統学的な解析によって、*Passalora* 属へと転属させ *Passalora fulva* (Cooke) U. Braun & Crous と長らくされて

表-1 トマト葉かび病の発生面積率と実防除面積率（平成28～30年度）^a

地域	調査年	冬春		夏秋	
		発生面積率 (%)	実防除面積率 (%)	発生面積率 (%)	実防除面積率 (%)
全国平均	H28	9.6	42.4	5.6	22.7
	H29	12.0	51.4	11.3	23.4
	H30	8.3	62.2	6.1	22.4
東北	H28	0	0	10.1	16.0
	H29	0	0	16.6	16.0
	H30	0	0	12.1	16.1
関東・東山	H28	8.3	63.2	4.9	40.4
	H29	17.1	91.0	23.7	41.0
	H30	8.4	67.4	8.4	67.9
北陸	H28	0.8	30.3	1.3	20.0
	H29	0.9	31.0	3.7	28.7
	H30	1.2	30.6	3.8	29.7
東海	H28	29.8	86.3	21.8	20.1
	H29	28.3	89.8	6.1	21.5
	H30	12.6	91.1	3.5	30.9
近畿・中国・四国	H28	5.8	27.2	2.0	18.1
	H29	4.1	27.2	2.3	17.5
	H30	8.4	29.4	8.4	18.8
九州	H28	4.7	18.6	2.5	17.8
	H29	6.0	21.8	2.4	17.9
	H30	10.0	22.7	4.8	20.7

^a 農水省および JPP-NET の公開データより算出：発生面積率 = 発生面積 / 作付面積、実防除面積率 = 実防除面積 / 作付面積。北海道と沖縄県は3年間の発生面積0%のため未記載。

Ecology and Control of *Fulvia fulva*. By Yuichiro IDA and Hirotoishi SUSHIDA

(キーワード：トマト葉かび病, レース分化, 抵抗性品種, 耐性菌)